

本事業及び本対象技術分野に関するアンケート調査結果について

1. 本事業及び本対象技術分野に関するアンケート調査実施方法について

- これまでに技術の実証試験を行った実証申請者（本年度技術の実証試験を行っている実証申請者も含める）、及びこれまでに実証試験を行った技術を導入しているエンドユーザーを対象として、本事業及び本対象技術分野への理解を深めること、またより効果的な制度の構築に向けた検討を行うことを目的として、アンケート調査を実施した。

*アンケート対象：

- ・ これまでに技術の実証試験を行った実証申請者
- ・ これまでに実証試験を行った製品技術を導入しているエンドユーザー

*アンケート実施方法：アンケート用紙を電子媒体あるいは、郵送にてアンケート用紙を送付し、回答も同形式にて回収した。（参考資料 3）

*アンケート実施期間：平成 23 年 1 月 29 日～1 月 29 日

*アンケート回答数：

- ・ これまでに技術の実証試験を行った実証申請者 18 回答
（送付機関：22 機関、回収率：82%）
- ・ これまでに実証試験を行った技術を導入しているエンドユーザー 7 回答
（実証申請者より紹介の上、ご協力をいただいた。送付機関：8 機関、回収率：88%）

2. これまでに技術の実証試験を行った実証申請者に向け実施したアンケートの実施結果

(1) 技術が実証された年度

実証された年度	補足情報	回答数
(a) 平成 15-16 年度	国負担制	13
(b) 平成 17-21 年度	手数料徴収体制移行後	3
(c) 平成 22 年度	手数料徴収体制移行後、既存データの活用あり	2
(d) 平成 23 年度	手数料徴収体制、既存データの活用（現在実証試験実施中）	2

(2) 本事業の成果及び実証を行った技術について

①本事業の成果（実証試験結果報告書、ロゴマーク）の利用状況について

選択肢	回答数
(a) 現在利用している。	9
(b) 現在は利用していないが、今後利用する予定である。	1
(c) 現在は利用していないが、今後利用するかもしれない。	3
(d) 以前は利用していたが、現在は利用していない。	2
(e) 現在は利用しておらず、今後も利用する予定はない。	1
(f) その他	2
[(f)その他の内容] ・システムの販売をしていないため。 ・実証中につき交付されていない。	
[利用の理由について] ○利用している ・エンドユーザーが評価できる参考資料として（公的機関の評価）。 ・営業展開を行う中で有益なツールとなるから。 ○利用していない ・実証試験後、製品仕様を大幅に変更したため。（実証フィールドも改造した） ・ロゴマークの存在を知らなかった。	

②本事業の成果（実証試験結果報告書、ロゴマーク）の活用方法について

選択肢	回答数
(a) 同一基準での評価として	4
(b) 公的試験結果として	9
(c) 企業広告（販売用資料）として	8
(d) その他	0

③実証後の技術の仕様・性能の変更について

選択肢	回答数
(a) 変更はない。	10
(b) 軽微な変更があった。	4
(c) 大幅な変更があった。	3

⇒以降(2)④～⑦への回答は、この設問で(b), (c)を選択した機関のみをお願いした。

④仕様・性能に変更があった場合の対応としての、製品の型式・型番等の更新・変更について

選択肢	回答数
(a) 行っていない。	4
(b) 行った。	3

⑤仕様・性能に変更があった場合の対応としての、本事業の成果（特にロゴマーク）を利用について

選択肢	回答数
(a) 変更前と同様に、ロゴマークを利用している。	0
(b) 注釈を用いるなどしてその違いを明示し、ロゴマークを利用している。	0
(c) 利用していない。	7

⑥仕様・性能に変更があった場合の対応としての、変更のあった箇所についての追加的な実証試験希望について

選択肢	回答数
(a) 必要な試験費用をかけても、追加の実証試験を行いたい。	0
(b) 試験費用によっては、追加の実証試験も考えたい。	1
(c) 追加の実証試験に関しては、考えていない。	6

⑦本事業の成果（実証試験結果報告書、ロゴマーク）について、「実証試験時と実際の製品使用時とで製品の性能に相違が生じる場合、又はその可能性がある場合、その性能の差異を生じさせる主な要素について明示すること（平成23年度環境技術実証事業実施要領 第2部第11章4. (2) [3]より抜粋）」となっている。

これらの対応についての認知度について

選択肢	回答数
(a) 知っている。	1
(b) 知らない。	5
(c) よくわからない。	1

(3) 既存データの活用について

①平成22年度より既存データが活用できるようになったことへの認知度について

選択肢	回答数
(a) 知っている。	3
(b) 知らなかった。	14
(c) わからない。	0
(d) 平成 22 年度に実証し、既存データが活用できることは知っていたが、活用しなかった。	1

②既存データが活用による実証対象技術への申請のしやすさについて

選択肢	回答数
(a) 申請はしやすくなる。	5
(b) 申請はしにくくなる。	0
(c) 特に変わらない。	7
[理由] <input type="radio"/> 申請しやすくなる ・事前の調査等が大幅に軽減されるから。 ・信頼性のある既存データがあれば、それを有効活用するべきである。 ・費用が削減できた。実証結果を事前に想定できる。 <input type="radio"/> 変わらない ・実証試験に代える精度をもつ既存データを収集する手間が大きいと考える。 ・既存データに公的信頼性の欠ける要素があり、信頼性の担保ができていなかった。	

③実証対象技術として申請する前の、既存データとして活用できるようなデータを採取について（平成22年度以降の実証申請者のみ回答）

選択肢	回答数
(a) 既存データとして活用できるよう、意識的にデータを採取した。	1
(b) データ採取は行ったが、既存データとして活用することは意識しなかった。	1
(c) 活用できるようなデータ採取は行わなかった。	1

④既存データを活用の有無及び実証試験費用は軽減について（平成22年度以降の実証申請者のみ回答）

選択肢	回答数
(a) 活用してない。	0
(b) 活用したが、実証試験費用は軽減されたと思わない。	0
(c) 活用し、実証試験費用は軽減されたと思う。	2

⑤実証試験費用の軽減以外に既存データを活用できるようになったことによる、メリット、デメリットについて

<input type="radio"/> メリット ・実証試験データ収集に掛かる時間の短縮。 ・実証結果を事前に想定でき、社内の合意形成がしやすい。

(4) 個別ロゴマークについて

①個別ロゴマークの認知度について

選択肢	回答数
(a) 知っている。	5
(b) 知らない。	12
(c) 見たことがあるような気がする。	1

②平成21年度以前に実証された技術に関しても、希望があった場合には、今後下記個別ロゴマークが交付される。個別ロゴマークに変更、利用の希望について

選択肢	回答数
(a) 是非変更し、利用したい。	3
(b) 機会があれば変更し、利用したい。	6
(c) 特に変更することは考えないが、現在のロゴマークを引き続き利用したい。	2
(d) 機会があれば変更したいが、今後も利用は考えていない。	2
(e) 変更、利用の予定はない。	2

(5) 有機性排水処理技術の国際展開について

①製品・技術の海外への輸出の実施について

選択肢	回答数
(a) 海外へ販売した実績がある。	6
(b) 考えており、現在海外への販促を行っている。	2
(c) 考えてはいるが、実施していない。	5
(d) 考えていない、また実施の予定もない。	5

②製品・技術の海外への輸出にあたっての対象国・地域について

選択肢	回答数	選択肢	回答数
(a) 北米地域	3	(e) アジア地域	13
(b) 南米地域	1	(f) オセアニア地域	2
(c) 欧州地域	1	(g) その他	0
(d) アフリカ地域	0		

[具体的な国・地域について]

- ・ネパール、スリランカ、ベトナムで浄化試験を実施中。
- ・ハワイ、中国四川省
- ・中国 重慶市 河南省 杭州市、タイ バンコック
- ・中国、タイ、マレーシア
- ・中国、韓国、台湾、フィリピン、バーレーン
- ・中国

- ③実証試験結果報告書は、著作権を有する環境省に利用許可を得ることにより、外国語翻訳の作成や利用が可能となる。今後の海外への技術の輸出に当たっての、実証試験結果報告書の外国語翻訳の活用について

選択肢	回答数
(a) 活用する、したい。	6
(b) 活用したいが、出来ない。	2
(c) 活用しない、今後も活用の予定はない。	1
(d) わからない。	3
[理由]	
<ul style="list-style-type: none"> ・中国語訳が大変である。特に中国は知財の関係で、あまり詳しくは情報をだしたくない。 ・実証試験時とは性能が向上しているため、特に開示する必要がないと考えられるため。 	

- ④今後、海外への技術の輸出に当たり、重視する項目、及び実証試験で実施した試験方法・条件の活用について

	pH	B O D	C O D	S S	n-Hex	大 腸 菌 群 数	T- N	T- P	汚 泥 発 生 量	そ の 他
重視する*	3	6	5	5	8	1	4	4	5	0
実証試験で実施した試験方法・条件の活用について										
・実証試験で実施した試験方法が有効	2	5	2	3	4	1	3	3	3	2
・活用できない国がある	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0
・実証試験で実施した試験方法・条件が、現地では受け入れられない	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
・その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
[活用できない理由]										
<ul style="list-style-type: none"> ・し尿を含んだ排水処理の場合現地試験基準に合格する必要がある。(米国、豪州など) ・その国の技術分野に関する(評価)知見がない為 										

※複数回答可であったため、全回答者数＝重視する項目ではない。

- ⑤現在、共通ロゴマークには英語版があり、個別ロゴマークは、日本語版のみとなっている。今後、海外への技術の輸出に当たる、本事業における成果(共通ロゴマーク)の活用希望について

選択肢	回答数
(a) 活用する、したい。	5
(b) 活用したいが、出来ない。	3
(c) 活用していない、今後も活用の予定はない。	0
(d) わからない。	2
[具体的理由]	
<ul style="list-style-type: none"> ・知財の関係を重視したい。明らかにする内容を絞りたい。国内においても同様である。 ・当社は、民間市場での営業能力が弱体で、販売成果が上がっていません。また、当社の開発した浄化技術は、製品というよりは浄化原理に近いものと考えられます。現在、アジア各国で現地試験を始めていますが、大きな海外市場への展開に際して、何かアドバイスをいただけるようなシステムを設けていただければ幸いです。 	

(6) その他ご意見

<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業のおかげで、技術的な課題が明確になり、修正点が見つかったことに感謝しております。 ・技術の国際展開に向けて、国際基準（条件・方法）等、処方を伝授していただける情報があればほしい。 ・本事業のPR活動が必要。（環境技術の普及が促進され、エンドユーザーが評価できる資料となる為）。 ・本実証が広く業界内外の評価につながるよう、事業の拡充を図っていただきたい。 ・環境技術実証モデル自体の知名度が高いとはいええないため、実証をうけるメリットが見いだしにくい。 ・役所に指導されながらも、具体的解決策を市から教えられず苦慮していた、実証技術を導入した企業がある。その企業のアドバイスで市の下水道課に実証事業のパンフレットを持って行ったところ、この様な制度は全く知らないとのこと。（全職員）又知ったとしても、環境省が何が有効であるかをはっきりせず、環境省が薦めないのであれば、市としても事業者にも薦めることもできない。環境省が薦めないのであれば、周知されても、意味が無いものであると言われた。環境省と関連する行政に連携が無く、実効性と効率がはなはだ悪いと感じた。 ・環境省環境技術実証事業では、環境等の展示会にて、実証技術を紹介する機会を設けていたが、平成21年度の実証技術について、未だ環境省による展示会での実証技術の紹介を受けていない。至急、上記機会を実施して頂きたい。 ・グリーストラップの清掃に関して、国の指針には、法律がないので、どんな性能でも安価なものであれば、良いという傾向があり、高額な商品は販売に苦戦している。

3. これまでに実証試験を行った製品技術を導入しているエンドユーザーに向け実施したアンケートの実施結果

(1) 製品技術導入事業者について

①業種について

選択肢	回答数
a. 飲食店	2
b. 食品工場	1
c. 厨房施設	0
d. その他	4

②回答者の所属について

選択肢	回答数
a. 営業・販売	0
b. 事務・経理	2
c. 広報・宣伝	0
d. 開発・研究	0
e. その他	2
[その他の所属] ・給食調理場施設管理	

③導入時期について

選択肢	回答数
a. 平成 15 年以前	1
b. 平成 16 年	1
c. 平成 17 年	0
d. 平成 18 年	0
e. 平成 19 年	1
f. 平成 20 年	2
g. 平成 21 年	1
h. 平成 22 年以降	1

④使用期間について

選択肢	回答数
a. 購入よりずっと	6
b. 現在は使用していない	2
[現在は使用していない場合の使用期間] ・3年 ・3.5か月	

※平均使用期間：3.54年

(2) 有機性排水処理装置の導入の背景

①有機性排水処理装置の導入のきっかけについて

選択肢	回答数※
a. 有機性排水処理に苦慮していた。	6
b. 自治体などの指導など。	1
c. 近隣からの苦情など。	0
d. 水質検査を依頼した業者から排水の問題について指摘された。	0
e. 環境技術に興味があった。	3
f. その他	2
[その他の具体例] ・環境技術実証事業委員会にて	

※複数回答可であったため、全回答者数＝回答数ではない。

②現在の装置を知ったきっかけについて

選択肢	回答数
a. 製造企業からの販促により	4
b. 環境技術実証事業のウェブサイトを開覧して	0
c. 環境技術実証事業以外のウェブサイトを開覧して	0
d. 他のユーザーからの紹介をうけて	0
e. 水質検査を受けた際に検査業者から紹介をうけて	3
f. その他	0
[具体例] ・下水道課の紹介	

③導入した装置が、本事業において実証試験を行った技術であることを知った時期について

選択肢	回答数
a. もともと知っていた。	1
b. 購入前（検討段階）に知った。	1
c. 購入後に知った。	4
d. 今回はじめて知った。	1
[具体例] ・2年前に、環境技術実証事業の委員会に出席をして技術を知り、本学 水質分析を委託している業者を通じて技術の再確認をした。 ・製造企業からの提案で、当店舗での実証試験を行った。 ・製造業者から聞いた。(4) ※	

※()内は、複数事業者から回答数を示す。()のない回答は、1回答である。

④導入された装置に決めた理由について

選択肢	回答数※
a. 実証試験結果報告書を見て、技術的に優れていると思ったから。	1
b. 実証試験結果報告書以外の情報を見て、技術的に優れていると思ったから。	1
c. 環境省環境技術実証事業の文字が入ったロゴマークがあったから。	0
d. メンテナンスが簡便であったから。	2
e. 初期経費が適正な価格であると判断したから。	0
f. ランニングコストが適正価格であると判断したから。	3
g. その他	1
[その他の具体例] ・n-Hex 値を下げる目的での導入	

※複数回答可であったため、全回答者数≠回答数ではない。

(3) ロゴマークについて

①ロゴマークの認知度について

選択肢	回答数
a. 知っている。	2
b. 知らない。	5

②ロゴマークをどこで見たか

選択肢	回答数
a. 環境技術実証事業のウェブサイト	1
b. 製造企業のウェブサイト	0
c. 販売代理店・施工事業者のウェブサイト	0
d. 商品カタログ	0
e. 商品の包装パッケージ	0
f. 広告・展示会等のチラシ・ポスター	0
g. その他	1
[具体例] ・環境技術実証事業有機性排水処理技術 WG にて	

③ロゴマークがついた商品やロゴマークを取得した企業への印象について

選択肢	回答数※
a. 今後は、環境技術の商品を購入（仕入れもしくは採用）する際にロゴマークの有無を確認し、公表された性能について確認したい。	1
b. 環境技術実証事業のウェブサイトをもっと良く見てみたい。	0
c. 実証試験結果報告書のデータを確認してみたい。	3
d. ロゴマークや環境技術実証事業のことを周りの人に教えたい。	2
e. ロゴマークが付いた商品がもっと増えて欲しい。	3
f. 自分がロゴマークの付いた商品を購入し使っていることをミニブログ（Twitter 等）、ブログ、SNS（mixi, Facebook 等）などに紹介したい。	1
g. この事業について意見を提出したい。	0

※複数回答可であったため、全回答者数＝回答数ではない。

④ロゴマークの使用について

本事業において実証された製品（技術）については、環境技術実証事業実施要領の中で「実証済技術により、環境保全に取り組んでいる場合、その期間において、その旨を表示するために使用すること」（第11章3. (2)④より抜粋）が認められている。

ロゴマークの使用についての認知度について

選択肢	回答数
a. 知っている。	2
b. 知らない。	5

⑤装置の使用中のロゴマークの使用の有無について

選択肢	回答数
a. 使用している。	0
b. 使用していないが、使用する予定がある。	2
c. 使用していないが、今後使用を検討するかもしれない。	2
d. 使用しておらず、今後も使用する予定はない。	0
[具体例] ・ISO14001 認証取得していることや、環境教育を含む環境推進活動を積極的に行っており、施設導入についても広報したい。 ・ステッカーなどください	

(4) 有機性排水処理技術について

①普段からの有機性排水処理技術の情報収集方法について

選択肢	回答数*
a. 関連業界の展示会で収集する。	2
b. ウェブサイトなど関連サイトから情報収集する。	2
c. 他の利用者からのクチコミにより情報収集する。	1
d. 関連雑誌などから情報収集する。	1
e. 水質検査業者からの情報提供により収集する。	3
f. その他	1
[具体例] ・製造業者より収集 ・食品工業展 (FOOMA) ・エコプロダクツ展	

※複数回答可であったため、全回答者数＝回答数ではない。